

令和2年度
国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業

主体的・創造的な学習の実現を目指した 我が国や郷土の伝統音楽の授業開発

北海道教育大学附属札幌中学校
音楽科 渡辺 景子

研究主題設定の理由

○これまでの教育課程研究指定校事業（H26, 27～28年度）の研究における成果

：学習者が音楽と関わる視点を「作曲者」「演奏者」「鑑賞者」と意識することで音楽の捉え方を広げること、タブレット型端末を活用した創作の授業実践の開発、ワークシートの工夫や振り返りシートの活用方法の発信

研究主題設定の理由

○これまでの研究における課題

：授業中の意見交流の条件設定や活動内容、小学校における学びとのつながりを踏まえた中学校3年間の計画的な指導

⇒これまでに提案した授業実践の中には、教材、教具、設備や授業時数において、市町村立等の学校での実践になじまない点や参考にし難い点が含まれていたと考える。本研究では、これまでの研究の成果と課題や実践経験を活かし、我が国や郷土の伝統音楽を題材としながら、多くの学校で実践可能な授業を開発したい。

令和元年度の取り組み

- 前期
 - 年間指導計画の見直し，題材の検討
 - 公開授業・研究協議（教育研究大会）
 - 伝統音楽指導者研修会参加（8月）
- 後期
 - 公開授業・研究協議（公開学習会）（11月）
⇒授業実践①：第3学年「人形浄瑠璃に親しもう」（11月）
 - 授業実践②：第3学年「和太鼓に親しもう」（12月～）
 - 授業実践③：第1・2学年「箏に親しもう」（1月～）
 - 研究成果の発信：教育課程研究指定校事業・研究協議会（2月）

成果

※授業実践①を中心に

① “人形劇のよさ” から “人形浄瑠璃のよさ” へ，音楽科としての学びを深めることができた

⇒平成30年度と令和元年度の“人形浄瑠璃のよさ”についての生徒の記述内容を比較したところ、義太夫節に関わる記述が48.8%から83.7%、三業一体に関する記述が25.6%から64.3%に増加した。その要因として、ワークショップで「演奏者」として体験した演目を鑑賞教材に用いたことで、生徒が自分とゲストティーチャーの音楽に関わる表現方法（登場人物の心情の捉え方、太夫の語り方）の違いに自然と注目できていたことや、演奏体験できなかった三味線が加わることによる効果が引き立ったことが考えられる。

成果

②既習事項との共通点や相違点を探りながら鑑賞することができた

⇒太夫が一人で何役も演じているという点では、一人の歌手が四役を歌い分ける「魔王」の学習を想起していたり、心の声が歌で表現される点や、登場人物の心情や情景が器楽伴奏で示される点では、オペラ「アイダ」と比較していたりと、「鑑賞者」として既習事項と結び付けながら学習する姿が見られた。また、「人形浄瑠璃ってアニメみたい」「三味線はBGMという感じ」など、自身の経験と関わらせて人形浄瑠璃を理解しようとする姿が見られた。その結果、人形浄瑠璃に固有のよさや魅力を自分の言葉で表現することができた。

課題

●題材構成と時数、他教科との連携

⇒3年生の年間時数を考えた時、ワークショップの2時間を音楽科の授業に充てることが適切かどうか、再度検討が必要である。総合的な学習の時間や、国語科、社会科、美術科等と連携して題材を構成することでそれぞれの教科等の特性が活かされることとなり、音楽科で扱う1時間が、より音や音楽に着目したものに行えるのではないかと考える。

課題

●思考の過程を表現できるワークシート等の工夫

⇒他題材ではワークシートや1題材1枚の振り返りシートを用いているが、本実践ではまとめで用いた単票のみであった。ワークショップを通して感じたことや考えたことを記録したり、学びの深まりを実感できたりするようなワークシート等の工夫を行いたい。

令和2年度の取り組み

- 前期
- ・ 年間指導計画の見直し，題材の検討
 - ・ 授業実践①：第2学年「箏に親しもう」（6～7月）
※第1学年で実施の題材を延長
 - ・ 授業実践②：第2学年「人形浄瑠璃に親しもう」（7～8月）
- 後期
- ・ 授業実践③：特別支援学級「人形浄瑠璃に親しもう」（12月）
 - ・ 授業実践④：第3学年「人形浄瑠璃に親しもう」（12月～1月）
 - ・ 授業実践⑤：第2学年「さくらさくらの主題を生かして副次的旋律をつくろう」（1月～2月）
 - ・ 研究成果の発信：教育課程研究指定校事業・研究協議会（2月）

研究協議会では・・・

◆授業実践②③④「人形浄瑠璃に親しもう」 【資料１】

- ワークショップの様子、授業の実際について
- ワークシートの実際と平成30年度・令和元年度実践とのワークシートの内容比較

◆授業実践⑤「さくらさくらの主題を生かして副次的旋律をつくろう」 【資料２・譜例】

- 参考曲の演奏の様子、創作の様子など授業の実際について
- ワークシートや創作した作品の実際について
- これまでの器楽、創作の実践とのつながりについて

以上について報告し、みなさまからご質問やご意見をいただきたいと考えています。

音楽科学習指導案

日 時 ① 令和2年7～8月 第2学年
 ② 令和2年12月 特別支援学級
 ③ 令和3年12～1月 第3学年
 指導者 教諭 渡 辺 景 子

1. 題材 人形浄瑠璃に親しもう（「B鑑賞」）

教材 「東海道中膝栗毛より 赤坂並木の段」「傾城阿波の鳴門より 順礼歌の段」ほか

2. 題材の目標

総合芸術としての人形浄瑠璃に関心をもち、日本の伝統音楽に親しみを感じながら「東海道中膝栗毛より 赤坂並木の段」（以下「東海道中膝栗毛」）「傾城阿波の鳴門より 順礼歌の段」（以下「傾城阿波の鳴門」）の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解するとともに、生活や社会における音楽の意味や役割及び音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴く。

3. 本題材で扱う学習指導要領の内容

「B鑑賞」(1)ア(イ)(ウ)、イ(ウ)

〔共通事項〕(1)

- ・生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
 音色、リズム（間）、旋律、テクスチャ

4. 題材の評価規準

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	・「東海道中膝栗毛」「傾城阿波の鳴門」の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。【知識】	・「東海道中膝栗毛」「傾城阿波の鳴門」の音色、リズム（間）、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割及び音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴いている。	・人形浄瑠璃の語りの特徴や三味線の役割に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、我が国の音楽文化と豊かに関わろうとしている。

5. 題材について

人形浄瑠璃（※教科書の扱いは「文楽」だが、ゲストティーチャーの用いる「人形浄瑠璃」の語を使用）は、生徒にとって“身近なもの”ではなく、“自分からは遠いもの”“理解できない難しいもの”あるいは“歴史上の文化の一つ”という認識のようである。そのため、「どのようにすると、生徒にとって親しみ

やすいものと感じられるか」が、一番の課題であった。そこで、人形劇を入り口とすることで親しみを持ち、義太夫の体験を通して独特の発声や表現の方法に触れ、自分たちの演じたものと同じ演目を鑑賞し比較することを通して、人形浄瑠璃のよさや魅力へと迫れるように構成を工夫した。また、これまでに扱った歌唱やオペラの鑑賞での学習等と関わらせながら、音楽表現の共通性や固有性にも気付かせたい。札幌在住のゲストティーチャーとの関わりから札幌の音楽文化に興味をもつとともに、我が国の音楽文化に関心を持ち、そのよさを味わうことで、自己の音楽の世界を広げる機会としたい。

6. 教育課程研究指定校事業・研究内容との関連

研究主題【主体的・創造的な学習の実現を目指した我が国や郷土の伝統音楽の授業開発】

我が国の音楽文化に関する学習は未だ鑑賞が中心であり、和楽器を用いた演奏や伝統的な歌唱の学習についても、鑑賞のための体験としての位置付けとなる場合も多く、表現活動を通してよさを味わうような学習とするには不十分な面もある。そこで本校では、箏、邦楽囃子、和太鼓を用いた器楽、創作、鑑賞の実践や、人形浄瑠璃体験を伴う鑑賞の実践を行い、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、音楽の多様性の理解が深まるという成果を得た。今回は、さっぽろ浄瑠璃芝居あしり座の協力をいただき、第3学年については、3時間扱いの授業を構成した。

なお、昨年度の研究協議会では、「2・3年生の年間時数に対して、ワークショップの2時間が適切かどうか、他教科との連携を図って行ってはどうか」という課題があがった。そこで、第2学年については、総合的な学習の時間でワークショップの実施、ゲストティーチャーへのインタビューを行い、社会科で元禄文化、音楽科で鑑賞の授業を行った。

7. 指導計画

●さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座によるワークショップ

時間	所要時間	内容
8:55～9:10	10分	人形浄瑠璃の歴史等の解説、人形の扱いについて解説、実演
9:10～9:35	25分	人形遣い体験 ・3人1チームで三人遣い（主遣い、足遣い、左遣いを交代で）体験
9:35～9:45	10分	「二人三番叟」鑑賞
休憩		
9:55～10:05	10分	義太夫について解説、実演 →義太夫体験「寿式三番叟」
10:05～10:25	20分	グループに分かれて人形浄瑠璃の場面を演じる 「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」×2チーム 「東海道中膝栗毛 赤坂並木の段」×2チーム
10:25～10:35	10分	グループ発表
10:35～10:45	10分	「東海道中膝栗毛 卵塔場の段」鑑賞

※第2学年は、総合的な学習の時間のねらいに沿って、ワークショップの後にあしり座の活動についてインタビューを実施。

※特別支援学級は、グループ活動の2演目を「東海道中膝栗毛 赤坂並木の段」のみにし、最後の実演を「卵塔場の段→赤坂並木の段」として、自分たちの実演とあしり座の実演をワークショップの中で比較しながらそのよさを感じられるような構成とした。

●本時：グループワークで扱った「傾城阿波の鳴門」「東海道中膝栗毛」の鑑賞を通して、浄瑠璃（義太夫）のよさや特徴を探り、人形浄瑠璃の魅力をまとめる

8. 本時について（本時①1／1、②3／3）

（1）本時の目標

太夫の声の表現や三味線とのかけ合いに関心を持ち、音色、リズム、速度（間）、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、比較したり解釈したりすることで、人形浄瑠璃のよさや魅力を味わって鑑賞する。

（2）本時の展開

分	○学習内容 ・主な活動 ＊予想される生徒の発言	・教師のかかわり
00	○ワークショップの感想を交流する。 ＊3人で息を合わせるのが大変だった ＊ゲストティーチャーの人形は生きているようだった ○体験から感じた「人形浄瑠璃のよさ」を家族などにどのように伝えたかを交流する。 ＊ストーリー性 ＊人形の精巧さ ＊「浄瑠璃」のよさと言われるとわからない	・ワークショップの体験を振り返るよう促す。 ・多くが「人形浄瑠璃」ではなく、「人形劇」のよさになっていることに気付かせる。
	「人形浄瑠璃」のよさ（魅力・おもしろさ）は何だろうか	
07	○自分たちの演じた「東海道中膝栗毛 赤坂並木の段」を視聴し、感想を交流する。 ＊太夫の語りと合わせることが難しく、動きと語りがちぐはぐになっていた ＊大きな声で読むことに精一杯だったが、見てみると楽しいやりとりの雰囲気は出ていた ○あしり座の演じた同場面を鑑賞し、気付いたことを発表する。 ＊三味線による合いの手があると、滑稽さが増す ＊慌てたところでは、速度が上がっていた	・視聴した感想に加え、特に、演奏者（太夫）の生徒から、どのようなことを意識して演じたか、何が難しかったかを引き出す。 ・太夫と三味線の役割を確認する。 ・どのような感じをどのような音で表現しようと工夫しているかを、結びつけながら整理する。
25	○自分たちの演じた「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」を視聴し、感想を交流する。 ＊娘と母の演じ分けが難しく、視聴すると似たような感じになってしまっていた ○あしり座の演じた同場面を鑑賞し、特に「東海道中～」との違いについて気付いたことを発表する。 ＊娘の声色や音域、言い回しから幼いことが伝わった ＊言いたくても言えないという母の心情を、低音やゆっくりとした間で表現していた	・視聴した感想に加え、特に、演奏者（太夫）の生徒から、どのようなことを意識して演じたか、何が難しかったかを引き出す ・1人で歌い分けていることや、母の心情（心の声の表現）に着目するよう促し、どのような感じをどのような音で表現しようと工夫しているかを結びつけながら整理する。 ・必要に応じて、繰り返して聴き、「浄瑠璃」のよさについて整理する。
40	○人形浄瑠璃のよさ（魅力・おもしろさ）をワークシートにまとめ、交流する。 例）人形浄瑠璃のよさは、言葉だけではなく、太夫の声色や三味線の音色、人形の動きが一体となって、物語の様子や心情を表しているところだ	・（第3学年は、以前鑑賞したオペラでの学習を想起する。） ・体験したことや鑑賞したこと、これまで触れてきた音楽と関連させながらまとめるよう促す。
50		

（3）本時の評価

太夫の声の表現や三味線とのかけ合いに関心を持ち、音色、リズム、速度（間）、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、比較したり解釈したりすることで、人形浄瑠璃のよさや魅力を味わって鑑賞することができたかを、観察、ワークシートから見取る。

音楽科学習指導案

日時 令和3年1月～2月

生徒 北海道教育大学附属札幌中学校

第2学年A～C組

指導者 教諭 渡辺 景子

1. 題材 「さくらさくら」の主題を生かして副次的旋律をつくろう（「A表現」(3)創作）

教材 箏曲「さくらさくら」

2. 題材の目標

- (1) 音階などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) 音色（奏法による音色の変化）、旋律、テクスチャ（和音）、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、創作表現を創意工夫する。
- (3) 箏の音色や表現の特徴と旋律同士の重なりによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽をつくることに対する意欲と感性を養う。

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

「A表現」(3)ア、イ(ア)、ウ

〔共通事項〕(1)

- ・生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

音色（奏法による音色の変化）、旋律、テクスチャ、構成

4. 題材の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・音階などの特徴及び音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。【知識】 ・創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。【技能】	・音色、旋律、テクスチャ（和音）、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	・箏の音色や表現の特徴と旋律同士の重なりによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5. 題材について

第2学年の生徒は、これまでに「箏に親しもう」として、箏曲「さくらさくら」の演奏、箏曲「さくら」の主題による変奏曲「六段の調」の鑑賞に取り組んだ。また、創作においては、タブレット型端末を用いて、第1学年では変奏曲の発想で、第2学年ではモチーフを変化させた単旋律の創作に取り組む中で、音を音楽に構成する過程で試行錯誤する体験を積み重ねている。

本題材では、タブレット型端末では取り入れなかった箏を演奏する活動を創作の授業に取り入れ、新たな奏法、感じ方、表現の仕方などを体験させながら創作のイメージを膨らませる過程を大切にしたい。具体的には、「さくらさくら」の二重奏の体験や、箏の多彩な奏法と音色から創作のイメージをもたせ、箏曲「さくらさくら」の音階である「平調子」、何よりも「重なり」を大きな創作の条件とし、副次的な旋律の創作に取り組む。和音としての音の重なりのみではなく、奏法による音色の工夫、旋律としての全体構成にも着目して創作を進める。また、学習の展開や中間発表で演奏を効果的に取り入れることにより、旋律創作に様々なアイデアが生かされるばかりではなく、間を取る、呼吸を合わせるといったこれまでの和楽器を扱った学習が生かされるものと考えられる。

6. 教育課程研究指定校事業・研究内容との関連

研究主題【主体的・創造的な学習の実現を目指した我が国や郷土の伝統音楽の授業開発】

我が国の音楽文化に関する学習は未だ鑑賞が中心であり、和楽器を用いた演奏や伝統的な歌唱の学習についても、鑑賞のための体験としての位置付けとなる場合も多く、表現活動を通してよさを味わうような学習とするには不十分な面もある。授業者もいくつかの授業を開発したものの、教材や費用、時数など、毎年行える形になっておらず、本校に限らず多くの学校で汎用的・継続的に行えるようにするためにどのような工夫をすればいいかが課題であった。

今回の実践では、特に7. 指導計画にある題材の学習を想起し、既習事項と結びつけたり比較したりしながら創作を行うことを目指して題材を構成した。

7. 指導計画

「A表現」(2) 器楽	「B鑑賞」(1) 鑑賞	「A表現」(3) 創作
	第1学年 「きらきら星の主題による変奏曲」 (W.A.モーツァルト)	第1学年 『音の高さとリズムを変化させて旋律をつくろう』 (タブレット型端末を活用)
第1学年『箏に親しもう』 箏曲「さくらさくら」独奏	第1学年 「さくら変奏曲」(藤井凡大) 「六段の調」(八橋検校)	
	第2学年『音楽の構造を理解して聴き、管弦楽の響きを味わおう』 「交響曲第5番ハ短調」より第1・4楽章(ベートーヴェン) 「ボレロ」(ラヴェル)	第2学年 『モチーフを生かして旋律をつくろう～おかしなCM～』 (タブレット型端末を活用)



第2学年 「さくらさくら」の主題を生かした副次的旋律をつくろう

※『箏に親しもう』については、新型コロナウイルス感染拡大による休校措置等の事情により、2年生6～7月に実施。

《題材の全体構成》

時	●・学習内容 ※教師の働きかけ
1	(本箏、2人で1面を使用) ●箏曲「さくらさくら」についての学習を想起する。(20分) ・爪の付け方や姿勢、基本的な弾き方を確認する。 ・「さくらさくら」の旋律を演奏(復習)する。 ＜レベル1：教育出版 p.35 の箏1、レベル2：教育芸術社 p.28、レベル3：譜例1＞ ●「さくらさくら」の二重奏例を聴く。(5分) ＜教育出版 p.35＞ ・重ね方①ユニゾン、②カノン、③合いの手、④和音を確認する。 ●「さくらさくら」の二重奏を演奏する。(20分) ・それぞれ、第2パートを練習する。 ・全体で合わせて演奏する。また、演奏していない生徒は聴いて感じたことを交流する。 ●振り返りシートを記入する。(5分) ※次回は、二重奏を創作することを予告する。 ※本日の演奏を踏まえて、次回、どのような二重奏をつくりたいかについても触れるよう促す。
2	●前時を振り返る。(10分) ・二重奏を演奏する。 ・振り返りシートの内容の発表から、学習内容を振り返る。 ・奏法の工夫を取り入れたい生徒の振り返りシートをきっかけとし、「さくらさくら」レベル3で扱った、奏法①合わせ爪、②かき爪、③割り爪、④グリッサンドや、「さくら変奏曲」「六段の調」で扱った奏法を想起する。 ●様々な奏法を取り入れた二重奏の模範演奏を聴く。(5分) ＜譜例2＞ ・聴いて感じたことを交流する。 ●様々な奏法を体験する(20分) ・奏法⑤ピッツィカート、⑥スクイ爪、⑦後押しについて確認する。 ・それぞれ、第2パートを演奏する。 ・全体で合わせて演奏する。また、演奏していない生徒は聴いて感じたことを交流する。 ※「間違いなく演奏する」ではなく、「創作ではどのように生かせそうか」を考えるよう促す。 ●主題となる旋律を確認し、音を出しながら創作のアイディアを練る。(10分) ・主題となる「さくらさくら」の構成をつかむ。 ＜譜例3＞ →1・2小節目と11・12小節目、3・4小節目と7・8小節目、5・6小節目と9・10小節目が同じであることに気づく。 ※「新しい奏法と記譜の方法」を配付する。 ●振り返りシートを記入する。(5分)

3	●振り返りシートから、前時の学習内容を振り返る。(5分) ・奏法とその効果について述べているものを取り上げる。 「グリッサンドを使うと華やかになる」「ピッツィカートは柔らかい音だから、落ち着かせたいところに使う」など ●第2パートを創作する。(40分) ※箏で音を出して試しながら一人ずつ創作するが、ペアで協力してよい(楽譜を書いてもらう、アイデアについて聞いてもらう等)ことを伝える。 ※現在の段階で「通して弾ける」ものをつくるのではなく、創作のアイデアを大切に促す。 ●創作した作品をいくつか取り上げ、アイデアを共有する。(適宜) ・聴いて感じたことを交流する。 ※生徒の発言から新しいアイデアをひろい、教師がその場で弾いて試す。 ●振り返りシートを記入する。(5分)
4	●箏を対面させ、自作品の二重奏を体験する。(10分) ※演奏していない生徒は、他の生徒の演奏を聴くよう促す。 ●交流したい内容や、課題に思う点を整理する。(5分) ・これまでの創作の過程で考えてきたことや、二重奏を体験したことから整理する。 ●4人グループで交流を行う。(6分×4) ・「作曲者」「演奏者」「鑑賞者」の3つの立場を明らかにしながら交流を行う。 ・作品のよいところ：青、アドバイス：赤で意見を記入する。 ●自作品を見つめ直す。(5分) ・交流を経て考えが変化した点や、次回に活かしたいことを記入する。 ●振り返りシートを記入する。(5分)
5	●前時の交流をもとに、旋律を再構成する。 ●創作の過程を振り返り、発表会エントリースシートに旋律創作の思いや意図を整理する。 ●発表に向けて、ペアで二重奏の練習をする。
6	●創作した旋律の発表会を行う。

※生徒の記述したワークシート、実際の作品や演奏の映像等は、研究協議会で扱う。

< 譜例 1 >

箏曲

さくらさくら

【前奏・後奏つき】

(レベル3)

グリッサンド

一	3
●	
二	3
巾	
六	
一五	13
●	
九	
八	

合わせ爪: 親指と中指で二本の弦を同時に弾く

十	十	五	七
斗	九	四	七
巾	十	五	八
為			
斗	斗	六	●
十	十	五	七
●	十	五	七
	九	四	
●	八	三	八
○	●	●	●

七	為	七
七	巾	八
八	ヲ巾	九
●	巾	八
七	為	七
七	巾	八
	為	七
八	斗	六
●	●	●

五六	3
十	
五六	3
十	
五六	2
五六	3
十	
九	
八	
七	
一二	3
●	
巾	
為	
斗	
●	
五十	13
●	
●	
○	

かき爪: 隣り合った二本の弦を中指で手前に向けてほぼ同時に弾く

割り爪: かき爪を2・3の指で続けて弾く

2年

組

番

氏名

<譜例2>

箏2 箏1

	五
	六
	八
	七
	六
五十 ¹³	五
	●
一五 ¹³	●
	○

	五
	四
	五
	六
	五
	五
	四
	三
五	●
五	●
ス	
	七
	七
	八
オハ	●
	七
	七
	八
巾	●

	五
	四
	五
	六
	五
	五
	四
	三
五	●
五	●
ス	
(二)	七
	八
	九
	八
(二)	七
	八
	七
	六
	六
	●

	七
	七
	八
八	●
	七
	七
	八
巾	●
(二)	七
	八
	九
	八
(二)	七
	八
	七
	六
	六
	●

箏曲 さくらさくら 「様々な奏法体験」

日本古謡

2年

組

番氏名

< 譜例3 >

箏曲 さくらさくら 「創作用」

日本古謡

_____	七
_____	七
_____	八
_____	●
_____	七
_____	七
_____	八
_____	●
_____	七
_____	八
_____	九
_____	八
_____	七
_____	八
_____	七
_____	八
_____	六
_____	●

_____	五
_____	四
_____	五
_____	六
_____	五
_____	五
_____	四
_____	三
_____	●
_____	七
_____	八
_____	九
_____	八
_____	七
_____	八
_____	七
_____	六
_____	●

_____	五
_____	四
_____	五
_____	六
_____	五
_____	五
_____	四
_____	三
_____	●
_____	七
_____	七
_____	八
_____	●
_____	七
_____	七
_____	八
_____	●

_____	五
_____	六
_____	八
_____	七
_____	六
_____	五
_____	●
_____	●
_____	○

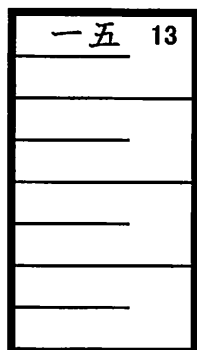
2 年

組

番 氏 名

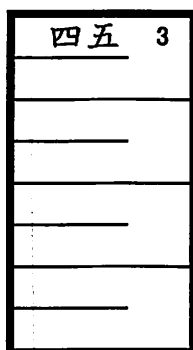
新しい奏法と記譜の方法

① 合わせ爪



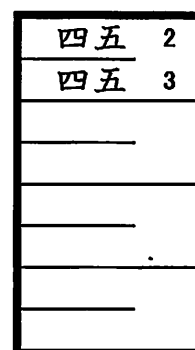
親指と中指で二本の弦を同時に弾く

② かき爪



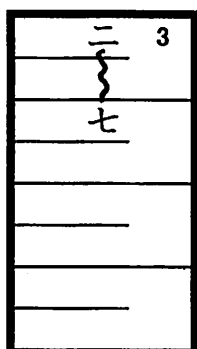
隣り合った二本の弦を中指で手前に向けてほぼ同時に弾く

③ 割り爪



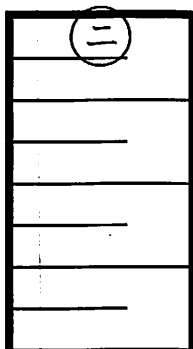
かき爪を2・3の指で続けて弾く

④ グリッサンド



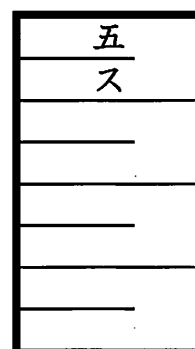
指定された音から音まで隙間なく滑らせるように弾く

⑤ ピッツィカート



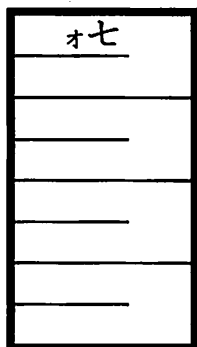
爪をつけていない指で弦を弾く

⑥ スクイ爪



親指の爪の裏側手前に向かって弾く(向こうに弾いたあとに続けて用いる)

⑦ 後押し



←大きい「オ」だと強押し(全音上げ)
大きい「ヲ」だと弱押し(半音上げ)

右手で弾いた後に左手で弦を押して余韻の音高を上げる